

2026年4月24日

[配信枚数3枚]

発信元 滋賀大学総務課企画・広報室

報道関係者 各位

滋賀大学と株式会社ダイフクが連携協定を締結 -データサイエンス分野における研究開発・人材育成を加速-

国立大学法人滋賀大学（滋賀県彦根市馬場 1-1-1、学長：竹村彰通/以下、滋賀大学）と株式会社ダイフク（大阪府大阪市西淀川区御幣島 3-2-11、代表取締役社長：寺井友章/以下、ダイフク）は、データサイエンス分野の向上を目的として、2026年5月8日に連携・協力に関する協定を締結いたします。つきましては、下記日程にて協定締結発表会を開催いたします。

【協定締結発表会】

日 時：2026年5月8日（金）13時30分～

会 場：滋賀県庁3階 会見室（滋賀県大津市）

出席者：国立大学法人滋賀大学

学長 竹村 彰通

理事 植田 匡志

データサイエンス・AIイノベーション研究推進センター長 来嶋 秀治

株式会社ダイフク

代表取締役社長 寺井 友章

専務執行役員 CTO ビジネスイノベーション本部長 権藤 卓也

[概要]

株式会社ダイフクは、滋賀県日野町に大規模な事業所を有し、先進的な物流システムの開発を通じて産業の発展に貢献してきました。本協定では、同社の有する豊富な現場実績に裏打ちされたデータや技術基盤と、滋賀大学の先進的なデータサイエンスに関する知見を融合し、データサイエンス分野における課題解決に資する解析技術の構築を目指します。

本協定に基づき、両者の連携拠点となる調査研究センターの設置を進め、実践的な研究開発と人材育成の推進に取り組んでまいります。これらの取り組みを通じて、産業の高度化および地域社会への貢献にもつなげてまいります。

《ご参考》

株式会社ダイフク：

ダイフクは1937年の設立以来、マテリアルハンドリングを事業の根幹とし、物流や生産現場などの合理化を追求してきました。現在、世界24の国と地域に生産・販売拠点を設け、海外売上高比率は70%強に達します。昨今、人手不足や生産性向上の課題解決につながる重要な社会インフラとして、マテリアルハンドリングへの期待が高まっており、これらのニーズに応えるため、ダイフクグループは常に次世代の物流・生産合理化システムを先駆けて開発する企業であり続け、社会の発展につながるソリューションを提供します。

(ウェブサイト：<https://www.daifuku.com/jp/>)

- 設 立 1937年5月20日
- 資 本 金 318億6,530万円(2025年12月31日現在)
- 代 表 者 代表取締役社長 寺井 友章
- 事業内容 マテリアルハンドリングシステムの総合メーカー
物流システムに関するコンサルティングとエンジニアリングおよび設計・製造・据付・サービスなど

◆取材に関するお願い

取材にお越しいただく際には、5月7日(木)正午までに、別紙「取材参加申込書」を滋賀大学総務課企画・広報室宛にFAX送信いただくようお願いいたします。

●本件に関するお問い合わせ

滋賀大学研究・産学連携推進課 担当：吉永

TEL：0749-27-1279 E-mail：soc-coop@biwako.shiga-u.ac.jp

株式会社ダイフク広報部 担当：北村

TEL：03-6721-3505

